

脱原発をめざす首長会議の皆さま

アンニョンハシムニカ。

まず、福島第一原発事故後2年が経ったにもかかわらず、まだ日本の皆さまが苦痛と悲しみの中におられることに、心よりお見舞い申し上げます。そして日本の脱原発をめざす首長会議の発足2周年をお祝い申し上げます。

福島の原発事故は多くの被害と苦難を及ぼしましたが、チェルノブイリ原発事故以降、世界中で原子力発電の問題点と原発事故の危険性に対し、再び大きな気づきを与える契機になりました。これにより多くの国家がエネルギー政策の方向性を転換しています。大韓民国でも原発を中心としたエネルギー政策の限界と問題点を認識し、地方自治体と市民社会を中心に、持続可能なエネルギー政策への変化を求める声が少しずつですが大きくなっています。

2012年2月10日、韓国においても原子力発電がもはや安価で安全なエネルギー源ではないという認識に45の自治体の首長が共感の意を集め、原子力発電から脱却し再生可能エネルギー中心のエネルギー政策への転換を通して持続可能な都市を建設しようという都市宣言を採択し、「脱核・エネルギー転換のための首長の会」を発足しました。

日本におかれましても脱原発をめざす首長会議などが脱原発のために沢山の努力と事業を展開していると聞いています。このような努力が、日本を原子力から安全で持続可能な未来へと向かわせる中心的な役割となる事を心よりお祈り申し上げます。

大韓民国の「脱核・エネルギー転換のための首長の会」もまた、今後、日本の首長会議と共に脱原発のために積極的に協力してゆきたいと思います。

最後に改めまして脱原発をめざす首長会議の発足2周年をお祝いし、支持と応援の言葉を贈らせていただきます。

韓国 脱核・エネルギー転換のための首長の会